

【投信調査コラム】

日本版ISAの道 その108

NIPPON
INDIVIDUAL
SAVINGS
ACCOUNT

7人に1人がNISAで積立!

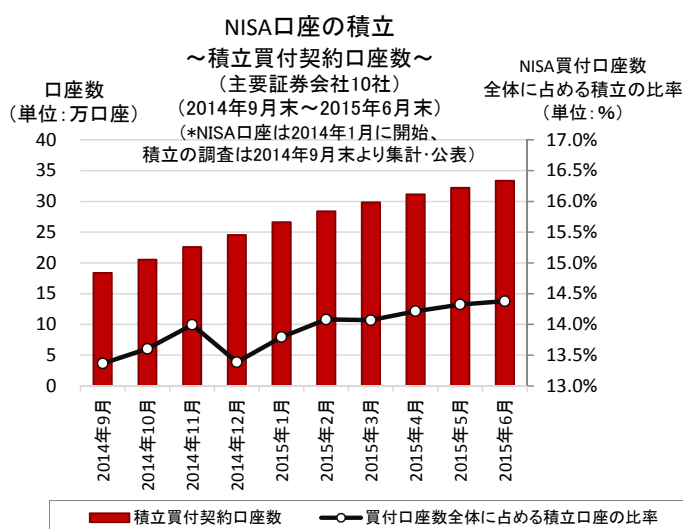
～NISAや2016年より開始されるジュニアNISAを使って投資を行おうとする年齢の若い資産形成層や投資初心者にとって、有益な手法 (金融モニタリングレポートより)～

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

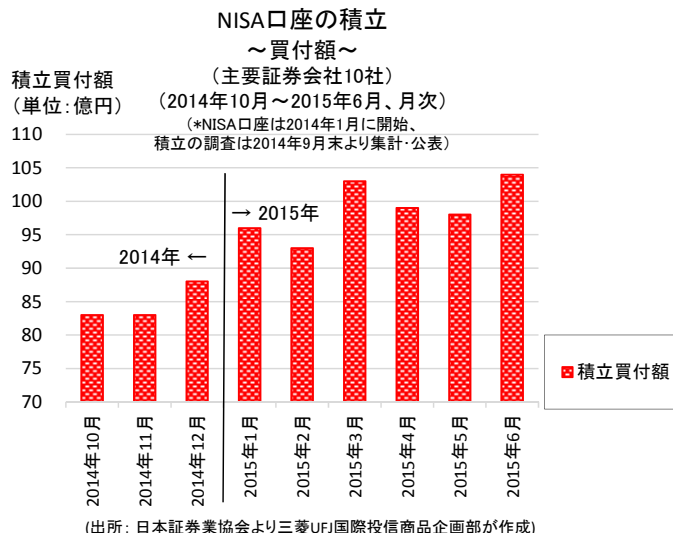
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

7人に1人がNISAで積立!～積立口座が稼動口座の14.4%を占めており過去最高～

2015年7月15日(水)に日本証券業協会が2015年6月末時点でのNISA口座開設・利用状況調査結果(主要10社)を発表した(URLは[参考ホームページ]参照)。その中で、NISA積立買付契約口座数が33万3413口座と過去最高を更新し続け、買付口座全体に占める積立口座(232万口座)の比率も14.4%と過去最高となっていた(下記左グラフ)。買付額で見ても2015年6月に104億円と過去最高を更新している(下記右グラフ)。NISAの買付口座の14.4%、つまり、7人に1人がNISAで積立をしており、それも増加中である。



(出所: 日本証券業協会より三菱UFJ国際投信商品企画部が作成)

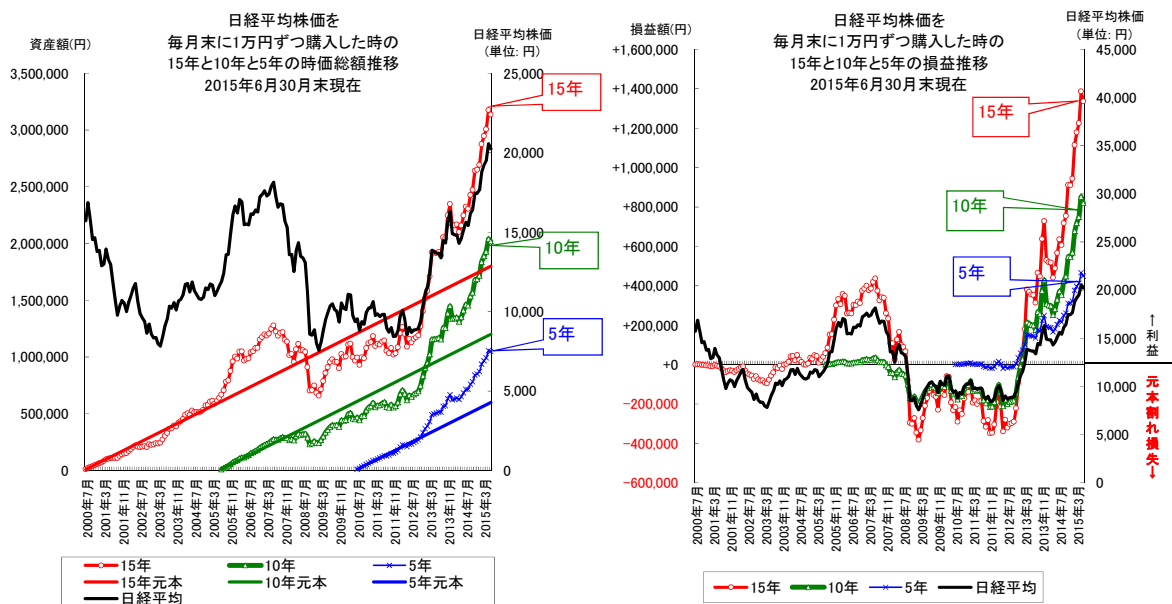


(出所: 日本証券業協会より三菱UFJ国際投信商品企画部が作成)

積立投資はNISAや2016年より開始されるジュニアNISAを使って投資を行おうとする年齢の若い資産形成層や投資初心者にとって、有益な手法

今後も拡大が期待されるNISAでの積立投資だが、そのメリットについて、金融庁は「投資信託の販売会社の多くは、分散投資の一つの手法として、積立投資を推奨している。積立投資は、少額ではじめることができるほか、投資時期を分散させることにより、取得価格の平準化を図ることができ、投資タイミング(開始時期)をあまり気にする必要がない。このため、例えば、NISAや2016年より開始されるジュニアNISAを使って投資を行おうとする年齢の若い資産形成層や投資初心者にとって、有益な手法と考えられる。」と言う(2015年7月3日付「金融モニタリングレポート」～URLは[参考ホームページ]参照)。さらに、金融庁は「積立投資の利点をイメージするため、日経平均株価インデックス型の投資信託を用いて、10年間、毎月1万円ずつ積立投資を行った場合と、120万円を一括購入してそのまま保有した場合について、半年ごとに起点と終点をずらして、20通りのシミュレーションを行い、それぞれの10年分のリターンを比較した。その結果、6割のケースで、積立投資のリターンが一括購入のリターンを上回ったほか、投資タイミングの違いによるリターンのブレも小さく、安定性に優れていた。一部のケースでは、一括購入のリターンが積立投資のリターンを大きく上回ったが、良好な投資タイミングを計ることは、プロの運用者でも難しいとされており、その難しさを軽減する積立投資は、投資経験の浅い一般投資家にとって、成功体験を増やすうえで有益な投資手法の一つと言える。」とも言う。

「金融モニタリングレポート」はその他にも、有用な情報がたくさんあるので、ぜひ読んでもらいたい。この「金融モニタリングレポート」に出ているのは、日経平均株価(インデックス型の投資信託)で積立投資をした場合のシミュレーションである。確認すべく、2015年6月末までの投資期間5年間、10年間、15年間の元本とリターン(損益)をグラフにしたものを下記に作成した。日経平均株価は先月2015年6月24日に20868.03と1996年12月5日以来18年6カ月ぶりの高値を更新しており、いずれの投資期間でも元本を大きく上回る利益となっている事が示されている。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

もちろん、上記の様に良い時ばかりではない。例えば、2010年6月までの10年では結果では損失である。この事は「金融モニタリングレポート」でもしっかり考慮されており、「1995年10月より2005年9月まで」、「1996年4月より2006年3月まで」、…、「2004年10月より2014年3月まで」、「2005年4月より2015年3月まで」と半年ごとに起点をずらした検証となっている。その上で、「6割のケースで、積立投資のリターンが一括購入のリターンを上回ったほか、投資タイミングの違いによるリターンのブレも小さく、安定性に優れていた。」(金融モニタリングレポート)なのである。

NISAでは、若年層や投資の未経験者層の利用拡大が期待されていることから、この様に投資タイミングのリスクを分散する事が有益とされている。ただ、投資対象についても分散する事が有益とされている。NISA積立を商品別に見ても、ほとんどが投信である(積立総額のうち投信97%、株式3%~全証券会社の2014年末時点)。

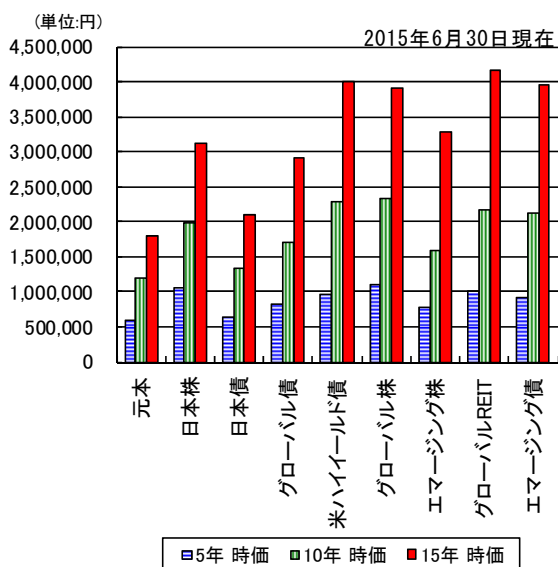
もちろん日経平均株価でも225銘柄から構成されており、かなり分散されていると言える。だが、日経平均株価以外、同じ日本株でも機関投資家がベンチマークとしている事も多いTOPIX/東証株価指数(2015年7月17日現在1882銘柄)も見たい。さらに個人投資家が投信経由でNISAでも投資可能な日本債やグローバル債、米ハイイールド債やグローバル株、エマージング株やグローバルREIT、エマージング債なども見たい。実際、NISAで投信積立を行う投資家において日本株ファンドは人気だが、次いでグローバル株ファンドやアセットアロケーションファンドも人気なのである(2015年6月のネット証券のNISA口座の積立契約件数上位1~5位の結果、詳細は2015年7月13日付日本版ISAの道その107を参照~後述URL[参考ホームページ]参照)。加えて、投資期間も「金融モニタリングレポート」の10年以外、例えば5年や15年といった期間についても検証したい。そして、売却時点の違う場合の検証も見たい。そこで、以下でその多様な検証をする。

積立投資を多様な対象、多様な期間で検証

積立投資の多様な検証をすべく、定額投資(等金額投資、ドルコスト平均法)による積立のリターン/リスクを投資商品のベンチマーク別に見る。検証は、毎月末に1万円ずつ積立購入してきたケース、つまり、毎月1万円定額の積立を、投信に使われることの多いベンチマークで見る。(成人)NISAの年間投資上限額は現行100万円/2016年1月から120万円で、単純に12で割ると月8.3万円程度/2016年から10万円(*実際のNISA1口座あたりの毎月の積立設定額は全平均で約3万円~2014年12月末の金融庁公表資料より)。だが、ここでは分かりやすく、さらに、若者や働く世代にも現実的な金額である、「金融モニタリングレポート」のコラムと同様の1万円としている(*ジュニアNISAと似る部分の多い「こども(学資)保険」でも月1万円が多い~2014年11月4日付日本版ISAの道その78~後述URL[参考ホームページ]参照)。それを5年、10年、15年という3つの投資期間について見る。

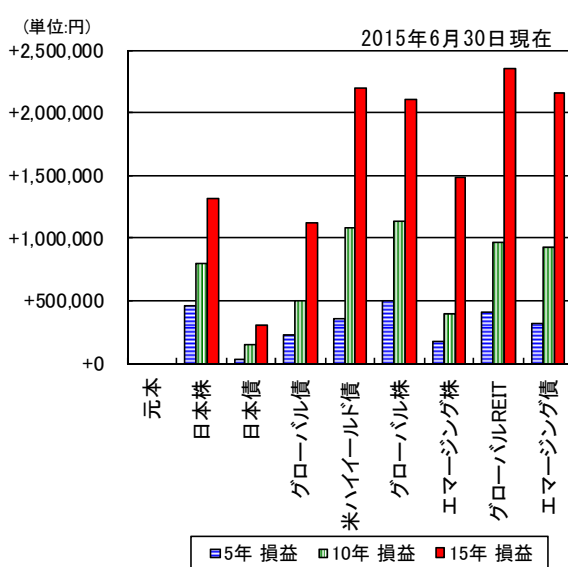
下記グラフは左が2015年6月30日時点の時価で、右が2015年6月30日時点の損益(*手数料等は無視)。日本株(TOPIX 配当込み株価指数)も良かったが、5年・10年ではグローバル株が最もよく、僅差で5年は日本株、10年は米ハイイールド債、15年ではグローバルREITのリターンが最も良かった。金融機関各社が発表する実際のNISA積立・投資信託ランキングでは上位に日本株ファンドやREITファンド、グローバル株ファンドがランクインしているが(詳細は後述[参考ホームページ]参照)、5年や10年、15年積立からの観点では合理的な投資と言えそうだ。

2015年6月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の時価 *左から投資期間 5年・10年・15年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)
*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同じ)。

投資期間 5年・10年・15年
2015年6月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の損益 *左から投資期間 5年・10年・15年。



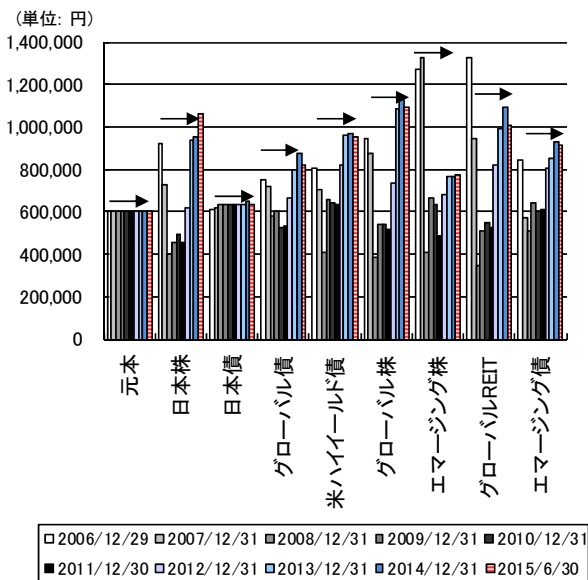
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

続いて売却時点を変える。投資時期のリスクを考慮して時間分散をはかり積み立てしても、売却時点の状況により仮に投資期間が同じでも結果は異なるからである。「**売買のタイミングや投資商品の見直しを考えるのは、資産が大きく増えてからでいいとの見方が多い。**」(2015年4月8日付日本経済新聞朝刊)や「**コツコツ投資の最大の悩みどころは『やめ時』だ。時間がたてばたつほど、運用資産の規模は膨らんでいく。**」(2014年7月6日付日経ヴェリタス)との視点も考慮、売却時点も変えて検証する。2006年から2014年の各年末、2015年6月末の計10の時点で見ると、順に5年のもの、10年のもの、15年のものとなっている。

投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価

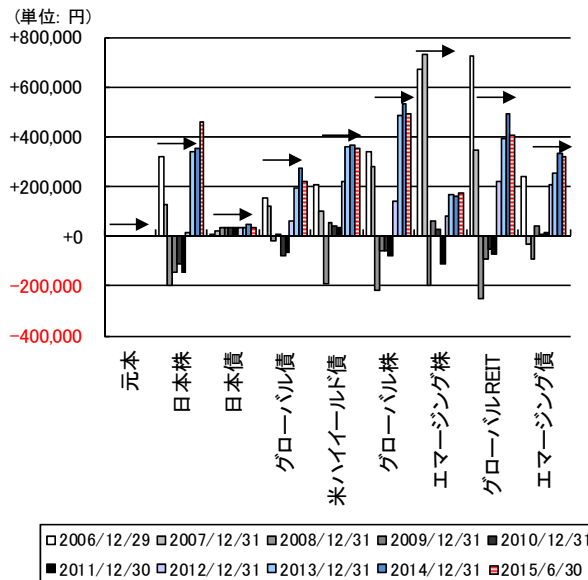
*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益

*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は6月末。



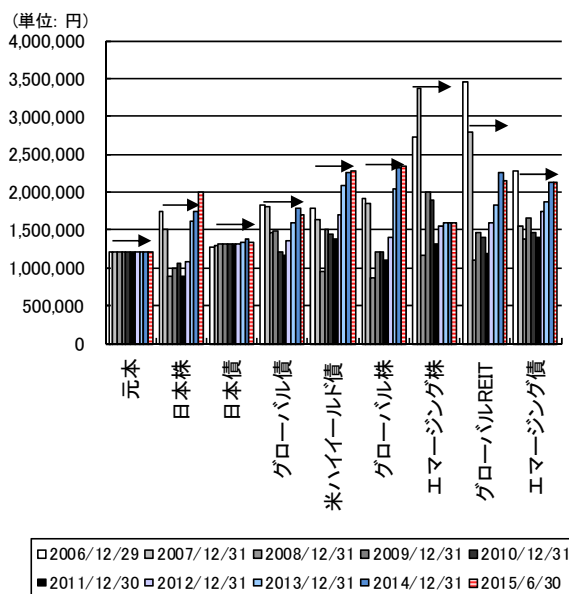
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

上記グラフの5年を見ると、2006年および2007年末であれば、エマージング株とグローバルREITはとても良かった。しかし、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)後にエマージング株もグローバルREITも損失となった。だが、それも2012年以降は回復、先述通り、2015年にかけて利益は拡大する。日本株は2008年から2011年の年末まで損失であったが、2012年によくプラス転換、2013年と2014年は利益となり、2015年は6月にかけて利益は一層拡大した。下記グラフの10年は上記グラフの5年に比べ全般的に黒字化、そして、次頁のグラフの15年になるとさらに黒字化が鮮明となる。

投資期間 10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価

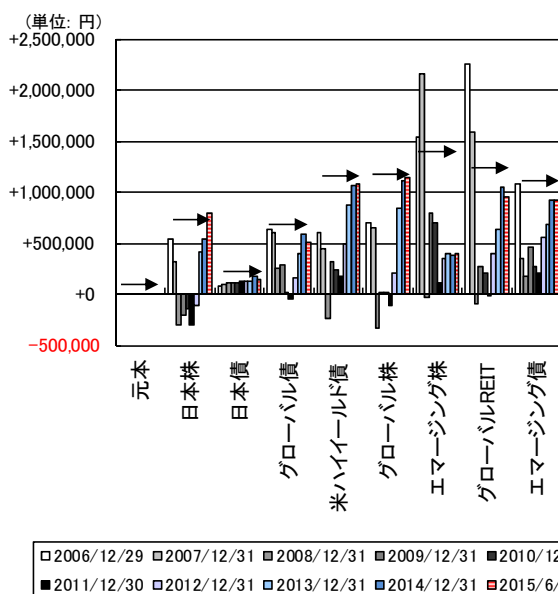
*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益

*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は6月末。

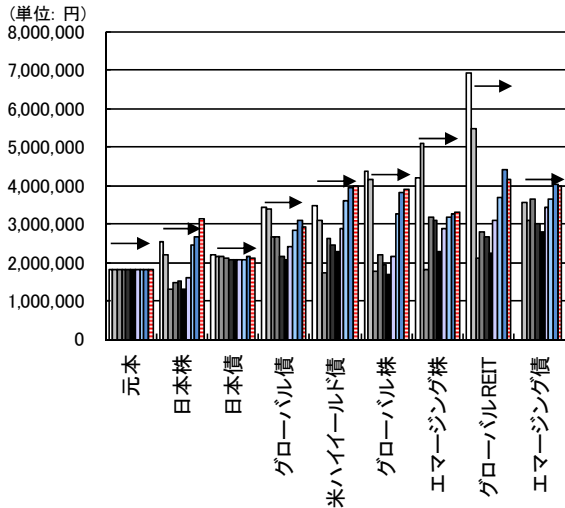


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

投資期間 15年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価

*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は6月末。

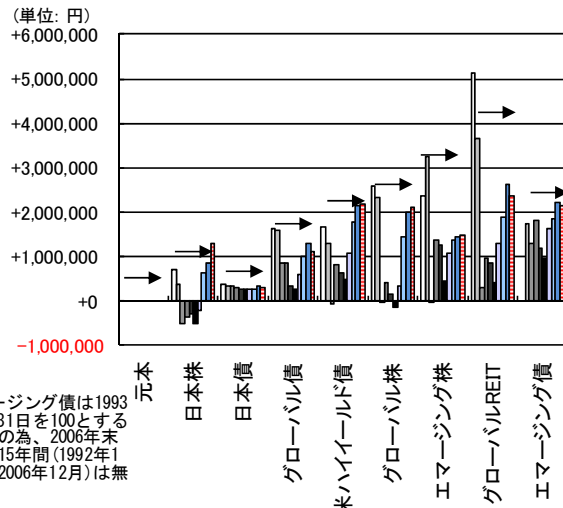


□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
■2011/12/30 □2012/12/31 □2013/12/31 □2014/12/31 □2015/6/30

(出所: ブルームバークより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益

*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は6月末。



□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
■2011/12/30 □2012/12/31 □2013/12/31 □2014/12/31 □2015/6/30

(出所: ブルームバークより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

*エマージング債は1993年12月31日を100とするデータの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無

以上であるが、これらのリターン/リスクの大小や安定さを良く見て、投資家は自身のリスク選好度や好み、わかりやすさに応じ投資をする事が奨められよう。投信を前提としているので、以上でも銘柄は十分に分散されているが、さらに、これらを組み合わせたバランス型ファンドやアセットアロケーション型ファンドも良いかもしれない。

ジュニア NISA、成人 NISA、個人型 DC、職場積立 NISA と言った節税出来る金融商品を使い、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、ぜひ資産形成の一助にしてほしいものである。

以上

【参考ホームページ】

2015年7月15日付日本証券業協会「NISA口座開設・利用状況調査結果について」…

「<http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou.html>」、2015年7月3日付金融庁公表「金融モニタリングレポート」コラム積立投資(103頁)…「<http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou.html>」、2015年4月13日付日本版ISAの道その97「NISAで人気のREITファンドは積立投資で好成績!〜コツコツ投資(積立投資)を多様な対象、多様な期間で検証する〜」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150413.pdf>」、2015年4月8日付日本経済新聞朝刊「長期戦でコツコツ増やすコスト考慮、資産分散を」…「<http://www.nikkei.com/paper/article/?ng=DGKKZO85385720X00C15A4PPD000>」、2014年7月6日付日経ヴェリタス…「<http://veritas.nikkei.co.jp/>」、2015年6月22日付日本版ISAの道その106「5月のNISAは前年の1.6倍ペース! 積立投資も寄与し、NISAが2015年末に7.3~7.5兆円、2020年までに25兆円と言う政府目標に続く「道」を順調に進む事を期待!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150622.pdf>」、2015年7月13日付日本版ISAの道その107「NISAで何が買われているか? 6月に既存と新規とネットで共通するのが日本株ファンド人気!」…「<http://www.am.mufg.jp/text/kam150713.pdf>」、2014年11月4日付日本版ISAの道その78「ジュニアNISA vs こども(学資)保険! NISA vs 英国ジュニアISA・米国529プラン!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141104.pdf>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。